

（３）汽水・淡水魚類

2025 年版レッドリストに掲載された汽水・淡水魚類のうち、新たにリストに掲載された種について、種ごとに形態的な特徴や分布、県内の状況等を解説した。記述の項目、内容等は以下の凡例のとおりとした。

【掲載種の解説（汽水・淡水魚類）に関する凡例】

【分類群名等】

対象種の本調査における分類群名、分類上の位置を示す目名、科名等を各頁左上に記述した。目・科の範囲、名称、配列はレッドリストに従った。

【評価区分】

対象種の愛知県における評価区分を各頁右上に記述した。参考として「環境省レッドリスト 2020」の全国での評価区分も各頁右上に記述した。また、各評価区分に対応する英文略号も同じ場所に記述した。

【和名・学名】

対象種の和名及び学名を各頁上の枠内に記述した。

【評価理由】

対象種の愛知県における絶滅のおそれの程度を評価した理由について記述した。

【形態】

対象種の形態の概要を記述した。

【分布の概要】

対象種の分布状況の概要を記述した。

【生息地の環境／生態的特性】

対象種の生息地の環境条件及び生態的特性について記述した。

【現在の生息状況／減少の要因】

対象種の愛知県における現在の生息状況、減少の要因等について記述した。

【保全上の留意点】

対象種を保全する上で留意すべき主な事項を記述した。

【特記事項】

以上の項目で記述できなかった事項を記述した。

【引用文献】

記述中に引用した文献を、著者、発行年、表題、掲載頁または総頁数、雑誌名または発行機関とその所在地の順に掲載した。

【関連文献】

対象種に関連する文献の内、代表的なものを、著者、発行年、表題、掲載頁または総頁数、雑誌名または発行機関とその所在地の順に掲載した。

キタドジョウ *Misgurnus* sp. (Clade A)

【評価理由】

近年ドジョウとは別種とされた種であり、現在は名古屋市内の 1 地点しか生息が確認されていない。生息地面積の減少や環境悪化、狭義のドジョウとの交雑が進んでおり、絶滅寸前の状態にある。

【形態】

全体的な形態はドジョウと同様だが、尾鰭基部における尾柄高が小さく、尾鰭以外の各鰭がドジョウより小さいため、全体的に細長く見える。また、胸鰭分枝軟条数と総脊椎骨数の最頻値がドジョウより多い。成熟したキタドジョウの雄の胸鰭骨質板はドジョウに比べて未発達で、背鰭後部の体側にのみ瘤状隆起を持つ。

【分布の概要】

【県内の分布】

名古屋市。過去には三河地方に分布した記録がある（現状不明）。

【国内の分布】

北海道から福井県（北海道は人為分布）。

【世界の分布】

ロシア（サハリン）。

【生息地の環境／生態的特性】

伏流水が湧出し、抽水植物帯が広く発達する湿地に生息する。福井県における調査研究では、良質な環境を有する湿地帯とその周辺に分布が限定されている。

【現在の生息状況／減少の要因】

西尾市や安城市に遺伝的に特異なドジョウが分布していたことは、各地のドジョウの蛋白質多型の分析結果によって示されていた（木村・尾庭, 1981）。それらはキタドジョウと考えられるが、現在の三河地方では分布が確認されていない。名古屋市では 2023 年にキタドジョウの分布が確認され（向井ほか, 2023）、当初は人為分布が疑われたが、その後、全国のキタドジョウの mtDNA と比較することで在来系統と考えられるようになった。現在知られている唯一の生息地周辺は開発が進行しており、ドジョウとの交雑も進んでいる。

【保全上の留意点】

生息地となる湿地の規模と環境を維持する必要がある。飼育下での系統保存も必要と考えられる。

【特記事項】

本種は分類学的な混乱があり、他の和名・学名が用いられることもある。

【引用文献】

木村正雄・尾庭きよ子, 1981. 各地のドジョウ集団の蛋白質多型. 動物血液型研究情報, 9: 32-36.
向井貴彦・浅香智也・鳥居亮一・宇地原永吉, 2023. 名古屋市におけるドジョウの mtDNA の系統と分布. なごやの生物多様性, 10: 81-86.

【関連文献】

中島淳・内山りゅう, 2017. 日本のドジョウ, 224pp. 山と溪谷社, 東京.
Okada, R., T. Inui, Y. Iguchi, T. Kitagawa, K. Takata and T. Kitagawa, 2017. Molecular and morphological analyses revealed a cryptic species of dojo loach *Misgurnus anguillicaudatus* (Cypriniformes: Cobitidae) in Japan. J. Fish Biol., 91: 989-996.
Okada, R., K. Morita, T. Toyama, Y. Yashima, H. Onozato, K. Takata and T. Kitagawa, 2024. Reconstruction of the native distribution range of a Japanese cryptic dojo loach species (*Misgurnus* sp. Type I sensu Okada et al. 2017): has the Type I loach dispersed beyond the Blakiston's Line? Ichthyol. Res., 71: 337-352.
八嶋勇気・岡田龍也・北川忠生, 2021. 福井県三方湖に流入する水路から得られた西限記録となるドジョウ隠蔽種 *Misgurnus* sp. Type I sensu Okada et al., 2017. Ichthy. Natural History of Fishes of Japan, 8: 1-4.
Yashima, Y., R. Okada and T. Kitagawa, 2023. Differences in sexual morphological dimorphisms between two loach species of the genus *Misgurnus* (Cypriniformes: Cobitidae) in the River Shono system, Fukui Prefecture, Japan. J. Vertebr. Biol., 72: 1-15.

（執筆者 向井貴彦）